



サロンあべの

お昼しながら話しましよ、
うれしいこと
たのしいこと

「サロン・あべの」12月の出会い

をいただきました。

お料理が進む中、各テ-

平成18年12月2日(土)「サロン・あべの」12月の出会いは、「お昼しながら話しましよ、うれしいこと たのしいこと」と題して、JR天王寺駅近くアベノアポロビル9Fの中華料理「楓林閣」において「昼食会」を開催しました。

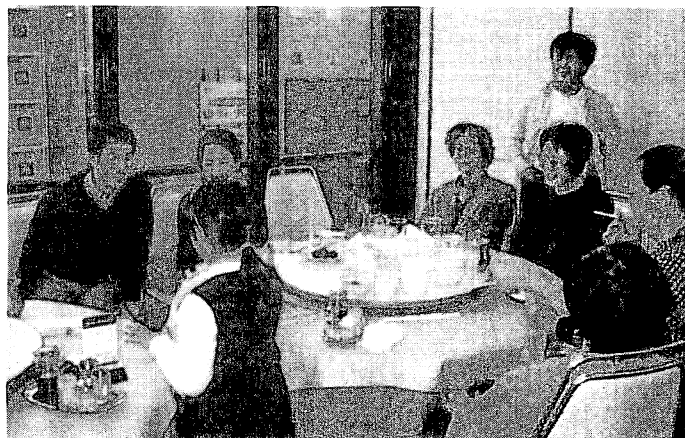
この日のコースは、お昼のランチコースです。中華テーブルに順にお料理が運ばれてきます。まず、前菜2種盛り合わせとウモロコシのスープです。次に春巻きとエビ団子の揚げ物、そしてエビチリです。テーブルを

回しておいしく盛りられたお料理をお皿に取っていきます。その後、豚味噌炒めと野菜のクレープ包み、焼き飯

天気の中参加していただいたみなさんの元気な笑顔にお会いすることができました。おいしいお料理と楽しい会話でお腹も心も満足の「サロン・あべの」12月の出会いでした。

(参加者14名 山村貴司)

また、ほんの1月前に結婚された豊谷さん夫妻へ、みんなでお祝いの言葉やひやかしの言葉を色紙に書いて贈りました。雨模様のすつきりしない



お昼しながら話しましょ、
うれしいこと
うれしいこと
たのしいこと

○ 昨日やっと、歯の治療に区切りがつきました。約半年かかりました。これで一応何でもかめますよね？ ZARDとコブクロのCDを聴きながら過ごせる時間が出来てよかったです。
久木 浩

○ 今年もいろいろあった1年でしたが、みんなが元気で健康が一番と思えました。サロンの食事会に参加していただいて本当にありがとうございました。
山村貴司

○ 今年もこうしてサロンの食事会に参加出来、なによりもみなさまに結婚の報告が出来たことがうれしいことです。来年も無事、この日を迎えられますように。今日はありがとうございました。
豊谷浩伸

○ 今年に入って、さまざま新しい出会い、そして家族が増えたこと。なによりも、家族になる人が出来たこと。そのことをお祝いしてくれる友人や仲間がいること。そして

今日、思いがけない素敵な色紙をいただいたこと。仕事のことで忙しい1年だったけれど、1年を振り返ったときにうれしかったことを、思い出せること。それがうれしいです。
豊谷良子

○ ここでごはんをたべておいしかったよ。めちやくちやおいしかったよ。
かがたにりさ(小学2年)

○ 8月は恒例のタイ・チェンマイへ里帰りしました。娘はタイ語で交流できていました。今度の正月には、タイで見ることのできない雪を見に北海道に行きます。
加賀谷 正

○ やるでもなく、やめることもなく、がんばることもなく、朝が来ると、風に吹き寄せられる枯葉のように吸い込まれて、手話のグループへと足が向く。今日も楽しかったとなづいて……。来年も、家族元気で同じ日々が続くことを祈る小さな幸せ。今日は若い2人の幸せを祈り、楽しいひとときでした。ありがとうございました。
宮脇信子

○ 各グループでの集いで、おいしいものを食べ、にぎやかにお話が出来、毎回楽しみに

しています。今日もおいしくいただき、楽しいひとときが送れ、幸せに思います。
松村美鈴

○ 今年の1年間は風邪も、大きな病気をすることもなく、サークルのみなさんと楽しく、あちらこちらと連れて行ってもらうて楽しく仲良くさせていただいたのがなによりうれしいことです。来年も健康で居れたら、もっともつと楽しい毎日が暮らせると思いますが、みなさまよろしく願いいたします。
藤木妙子

○ 今日サロン・あべのの人たちと楓林閣で昼の食事を食べてうれしかったです。みなさんのお話を聞いて、楽しい1日でした。来年もサロン・あべのに参加します。
高橋

○ サロン・あべのの食事会、今年アポロピルの中華料理・楓林閣でやりました。今年の食事会はいつもより人が少なかったです。でも昼ごはんはおいしくて、楽しかったです。来年はまたどこでやるかわかりませんが、1年アツという間です。来年もサロン・あべのに行きます。
倭 栄司

迎春 亥年

あけまして おめでとうござい
ます。昨年はいろいろとお世話にな
りまして、ありがとうございます
た。本年もどうぞよろしくお願ひ申
し上げます。今年は干支最終の「亥」
の年、猪に通じて「猪突猛進」とも
いわれていますが、そんな急いで
どこへ行く…。「亥」はいいに転じ
て「いい年」を目指して、ゆとりを
持って過ごしたいものです。ゆとり
は大切ですが、油断は災いを呼びま
す。昨年10月末に雨の歩道で松葉
杖を滑らして転倒した私は、右腕を
骨折しました。幸い手術は不要で、
ひたすら骨がつく日を待つだけの
日々を過ごしました。右手を封じら
れて食事はもとより、寝起きもまま
ならず、身の回りのすべてに介護が
必要になりました。日々の時間も思
考経路も止まったような入院生活
になっていました。サロン活動を始
め、参加したい秋の行事が目白押し
でしたが、すべてキャンセル。多く
のグループにご迷惑をおかけしま
した。そんな時、お見舞いに来てく
ださった方々からいろいなるお言
葉をいただきました。反芻するうち
に気が湧いてきました。そして、
気持ちが楽になりました。その人が
経験や体験からつむぎだされた言
葉は、分かりやすく温かいでした。
「骨は長いで、ゆっくりしい」とか
「最初の1週間だけたいへん。後は
のんびりで大丈夫」などの言葉に時
間をふっきれるものを感じました。
今回のことで多くの方々に支えら
れていることを実感すると共に、感
謝の思いが胸いっぱいになりまし
た。本当にありがたいことです。
それに左手のガンバリも知ること
ができました。 (け)

.....あきみみずきん

海の向こうからメリークリスマス

韓国・馬 泰植さんからの手紙

メリークリスマス
親愛なる富田慶子さま いかがお過ごしで
すか？ お元気のことと思います。
私たちはみな元気で、仕事に勉強に忙しく
しています。
下の息子はテスト中です。
妻は先月の終わりごろから今月の初めにか
けて、印刷の仕事に励んでおります。
私はレストランで食中毒にかかってひどい
状態でした。病院で医者から、しばらくは
薬とスープだけで安静にしているように、
と言われました。
オー、ノー
本当にひどい目にあいました。
あなたはどうですか。
あなたにマフラーと財布を送りました。気
に入っただけけるといいのですが。

2006年12月10日

馬 泰植
(訳=林 正弘)

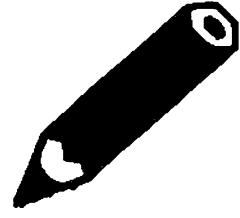
.....

アメリカ・
パティー トラッキーさんからの手紙

お元気のことと思います。
私たちは元気で、来るべき冬の寒さ(4℃
～10℃くらいになる)に備えています。
あなたのご家庭に祝福あれ。そして、いっ
しょに住んでいる人や訪れてくる人にも、
神の恵みがありますように。
クリスマスおめでとう！
お体大切に！

パティー トラッキー
(訳=林 正弘)

34



邦子、 ..ん歳の手習い。

バークレーで過ごしたあの頃

私は1987年9月から夫の留学に伴って約1年間アメリカのバークレー市で過ごしました。

夫の留学先のカリフォルニア大学バークレー校は、社会福祉関連でもいい大学という評判があり、もともと夫の留学したい大学でした。その頃、バークレーの障害者自立生活運動は、日本にも紹介され、多くの重度障害者が公費で介護者を雇い、介護を受けながら自立生活を送っているという話は、要介護の中途障害者(頸椎損傷)である夫にとって衝撃で

した。私たちは希望に胸ふくらませて、バークレーに旅立ちました。

バークレー市は、大学を中心として始まった障害者自立生活運動の発祥の地と言われるだけあり、当時は電動車いすを1人で操作し、行き来する重度障害者が大学構内や街中で多く見られ、バークレーの街に自然にとけ込んでいるという感じでした。大学周辺では、手動車いすを使っている夫のような障害者は少なかったですが、それでも夫の車いすを押す介護者の私にも周囲のまなざしは暖かく、私たちもバークレーの生活にはすぐとけ込むことができました。

アメリカにおける自立生活センター(CIL)運動は、1960年代に始まり、カリフォルニア大学バークレー校の障害者学生によって輝いたといえます。彼らは大学付属のコー

ウェル病院を寄宿者として、その後学生寮に居住を移して、カリフォルニア州の全身性障害者援助プログラムを利用し、介助者の雇用、訓練、解雇を自分自身で行い学生生活を送りました。1970年には、障害者学生プログラムをつくり、介助者紹介や車いす修理サービスなどを含めた障害者学生の援助シス

「それだけです」と
書いた手紙の余白には
それだけでない心がにじむ

—— 俵 万智
(サラダ記念日)

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴り一五〇円

テムをつくっていきました。障害者学生プログラムにおける自立とは、障害者がどれだけ自分の人生を管理できるか、そして援助を得ながら生活の質をいかに良くしていけるかということでした。

1972年、キャンパス以外の重度障害者がキャンパス同様の介助サービスや居住サービスを受けられるように、障害者の自立生活を援助していくためにバークレーCILが開所し、抗議運動やアドボカシー(権利擁護運動)も行われていきました。自立生活センターはバークレーCILをモデルにして全国レベ

ルで広がっていきました。1978年、連邦リハビリ局が各州を通じて各自立生活センターに運営補助金を提供することが制度化され、センターを維持する財源が安定するにつれて、各センターの政治活動や運動的な側面が次第に和らいでいきました。「障害者権利運動は1978年がピークで、その後運動の影響力は低下していった」とも言われています。(『哀れみはいらぬ』ジョセフ・P・シエピロ著・秋山愛子訳を参照)

私たちがパークレーにいた頃は、CILを中心とした安定した緩やかな自立生活運動の時期だったと思いますが、自立生活運動を牽引してきた人達や自立生活をしている障害者の方達にお話を聞き、直に自立生活について学べたことは、同じ障害者の夫にとって大きな力となりました。自立生活は、自己管理能力を必要とし、なかなか厳しい面もあります。自信をもって自分の人生を生きている皆さんの姿は光り輝いていました。もう20年も前のことですが、当時の鮮烈な印象は今もそのまま残っています。今のパークレーはどんな様子なのかもう1度、行ってみたいですね。

(定藤邦子)

みなさん、明けましておめでとうございます。平成19年(2007年)の新しい年があげました。

今年の干支は12支最後の「亥」です。

亥とは北から西へ30度の方角を表し、昔の時刻の午後10時頃を指します。そして亥は猪に通じ、猪と言えば猪突猛進を連想します。それで亥年生まれは、向こうみずに猛然と突き進む人が多いそうです。私の周りにもこういう性格の人をよく見かけますが、亥年でない人ばかりです。だから一概には言えないと思います。

毎年、干支を入れた年賀状を印刷しているのですが、今年は亥と一緒におにぎりの絵も印刷しました。この二つはどう考えても不釣り合なのですが、昨年10月に出版した「まんまるおにぎり」の中から選んだ

ものを年賀状に転載した次第です。

ところで車いすに乗っている人は寒くなってくると、膝かけをして外出すると思います。私もそうですが、昨年の11月頃

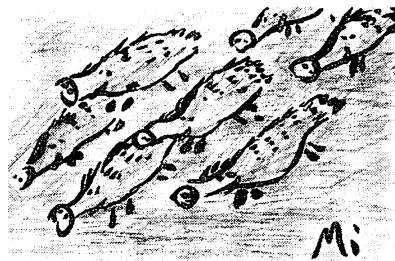
に新しい膝かけを買いました。その膝かけは薄い毛布なんですけど、とても暖かくて赤と白の亥の絵がデザインしてあります。買った当時、それを見た人たちが「来年の干支やのに先取りしたはるわ」と口々に言ってくれます。そんな他愛のないことに喜んでいる私です。

今年もいろいろと目標を立てているのですが、とにかく健康第1に心がけてこの1年を過ごしたいと思っています。

晴れのち晴れ¹⁰⁰

亥年に思う

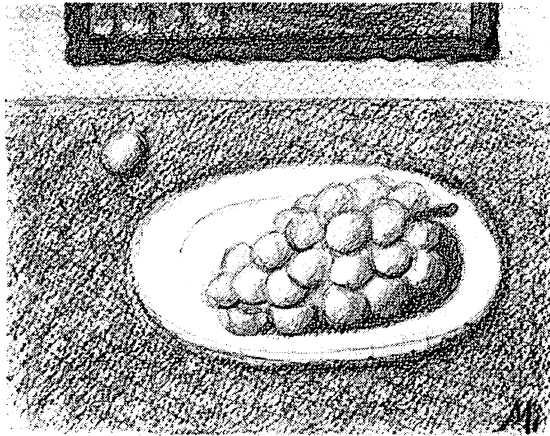
稲垣 恵雄



<サロン・あべの>では、「晴れのち晴れ」の連載100回を記念して3月17日(土)に、稲垣恵雄さんのお話を予定しています。

「一日に一つのことを」

「一日に一つのことをするように」と教えている本があった。一日に一つとは少なすぎる感じがするかもしれないが、朝起きて新聞を読むとか、テレビを見るといったことを一つと数えているわけではない。そんなことをいちいち数えあげていたら、一日に人は何十、何百と何かをしていることになるが、そ



の数に相当するほどの充実感が残らないことは誰もが経験していることだと思う。

一方で、一日が終わったとき「ああ、今日は何もしなかったな」と思うときがある。生きていくかぎり何もしなかったことなどあり得ないはずだが、実際には「何もしなかった」と感じることは、しばしばある。

「何もしなかった」のに対して「何かがあった」と思うときは、せいぜい一日に一つだというのである。もちろん「私は二つも三つもできる」と言う人もいるだろう。しかし、日常の繰り返しの外にあることで、エイッと気合いを入れて始めなければならぬことは、そんなに出来るはずがない。できたところの一つ。むしろ出来ないことのほうが多いというのが私自身の実感である。

だから「一日に一つのことを」というのは、ずいぶん控えめな目標であるようだが、意外にも堅実な目安であると思う。逆にいえば「一日に一つ」できれば上出来なのである。

きっと私だけではないと思うからこそ、あえて告白するが、私は何でも始めるのが遅い。朝パソコンの前に座っても肝心のことを始めるまでに数時間ポーツと、インターネットのニュースなどを読んでいる。ようやく始めたと思ったら、すぐに昼になる。昼食をとって、ゆつくり休んだら、またしばらくエンジンがかからない。そのうちに夕方になって子どもたちが帰ってくる。そうしたら、もう夜までお祭り騒ぎである。

夜は夜で、またポーツとしていて、メールを読んで返事を書いていたらいつの間にか夜中になっている。そして、いよいよ仕事を始めなければと思っていると、夜中の一時、二時になっている。そして幾（いく）ばくかの挫折感をもって布団にもぐりこむ。これが私の最近の在宅勤務時の日常であった。

「一日に一つ」というのは、そんなぐうたらな私にとっては大きな指針になると思う。なぜなら、とにかくあれやこれやと考えなくて良い。朝から「これだけは、やり遂げよう」と思い、親の仇（かたき）のように睨（にら）みつけなければならないのである。

だいたい私のパソコンは、スイッチを入れ

ると自動的に溜(たま)っている仕事のリストが出るように設定してある。これを見た途端、私は圧倒され、力が抜け、そのあげくにニュース・サイトをクリックして、国際政治の動向から国内の汚職や犯罪の記事、スポーツや、はたまた芸能人のスキャンダルの記事まで丹念に数時間かけて読んでしまうのかもしれないのである。

一日に一つでいいではないか。一年なら三百以上にもなる。今日はサロンの原稿で「一つ」を成し遂げた。相変わらずの遅いスタートで、すでに午前一時をすぎているのだが、今夜はまずまずの満足感で眠れそうだ。(知)

お知らせ

〈サロン・あべの〉2月の出会い

内 容…ジョゼと虎と魚たち(DVD)鑑賞
日 時…2月17日(土)午後1時〜4時
場 所…育徳コミュニケーションセンター2階

TEL 06-6621-1901

最寄り駅…地下鉄御堂筋線「西田辺」
問い合わせ先…

TEL 06-6691-9071 (山村貴司)

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第246号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第246号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳DJ)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
 - (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけつと音訳)
 - (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
 - (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
 - (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
 - (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
 - (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
 - (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
 - (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送05.6.26と05.9.18)の録音テープ
- ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後のDJ印はディジー録音。

Mai スウェーデン 留学記 4

冬の季節

明けましておめでとうございます。2007年も皆様にとって素敵な1年でありますように。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、日本も暖冬とはいふものの、時折吹く冷たい風に冬を感じています。「スウェーデンは寒いでしょう」とよく言われるので、どんな極寒を想像してくれているのかおかしくて真面目に「日本の方が寒くてたまらないです」と答えています。実際にスウェーデンの寒さはひどくありません。気温はマイナ

ス10度近く
になっても、

日本のよう

に北風がほ

とんど吹か

ないので、

体感温度は

日本の方が

寒いのです。

たとえ雪が

積もっても、

日本の豪雪

地帯のよう

に何メートル

も積もる

こともなく、せいぜい50センチくらい。雪道を

歩きなれていない私は、50センチくらいで

も凍っている道でよく滑って転んだものでし

た。ヨチヨチ歩きの赤ちゃんが、転ばずに上

手に歩いている横で滑って転んで、赤ちゃん

にキョトンとした目で見つめられ、恥ずかし

くなつたのを覚えています。

除雪車が1日中、ものすごい音を立てなが

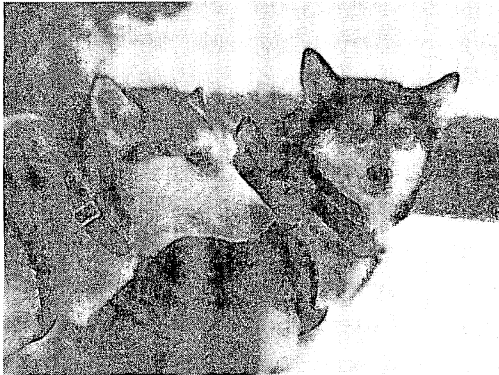


ヴェクショーの冬 (ヴェクショー大学付近にて)



ヨックモック郊外

ら寮周辺を除雪しているのので、除雪車の音で目覚める毎日でした。この除雪車は、いつも街や住宅地を巡回していますが、必要であればいつでもコミュニケーション(市町村)に連絡をして、除雪車に来てもらうことができます。家の中には、セントラルヒーティングで暖房しているのので、部屋はいつも25度なので、日本より薄着で快適なのです。初めてなので冬は、



犬ぞり (ヨックモックにて)

寒さをしのげるようにと家族は冬用のパジャマやセーターをたくさん送ってくれましたが、1度も着ないままに終わってしまいました。

1月はまだ日の光が弱く薄暗いですが、スウェーデンの人々は、凍った湖での自然のスケート場でスケートを楽しんだり、森の中でスキーを楽しんだり、冬の季節も思いつきり楽しんでいきます。日本のような高い山がないので、スキーもクロスカントリーですが、自然を感じ、楽しめる環境が身近にあるのは羨

ましい限りです。

この時期には、北極圏に行くと、オーロラという夜空に輝く光のショーを見ることができません。地球温暖化の影響もあり、最近北極圏といつても気温はそんなに下がらなくなりました。それでもマイナス25度近くまで下がることがあります。マイナス25度の世界は、髪の毛もまつ毛も凍る不思議な世界です。そこまで気温が下がり、天気の良い夜にはオーロラが神秘的に世界に連れて行ってくれます。ただし、運がよければの話で、場所、気温、天気すべての条件

ていたら、オーロラが見えたよ」と教えてくれましたが。

犬ぞり体験もできるのが、北極圏での冬の一つの楽しみなのです。凍つく道で足から血を流しながらでも引つ張ってくれるハスキーたちに戸惑いながらも、それでも美しさと厳しさのある大地には感激。犬達に感謝の気持ちでいっぱいになります。

スウェーデンの人たちは、いつも冬の季節であつても活発に温水プールに通ったり、スノーモービルなどの冬のスポーツをしたりと、上手に長い冬と付き合う方法を知っています。とても行動的ですが、実は光の量がとても少ないので、体を動かすことで、うつ病にならないようにコントロールも兼ねているのです。冷え込みは少ない冬ですが、太陽の光はほとんどない一だから、うつ病になりやすいのです。電気の光を人工的に浴びる日照療法もありますが、体を動かし、人と自然に触れ合うことを大切にしている昔からの生活の知恵が根付いているのでしょう。

光り輝く春の訪れはまだ遠いです。

(清原 舞)

美智子のこんな話

岸田美智子

出直してよ！ 障害者自立支援法！
出直してよ！ 障害者の自立生活？

昨年、みなさんにとつてどんな1年だったのでしょうか？

私たち「あいえる協会」にとつて、とても悲しい出来事がありました。2人の仲間が亡くなってしまいました。

1人は福祉ホーム「あいえる」の開所当時から中心メンバーであった職員で、重度障害者の入居者支援に、真摯に取り組んでいた竹岡さんでした。

もう1人はグループホーム「ほんわか」の入居者だった和久さんです。和久さんは典型的で劣悪な入所施設から、地域での自立生活に命がけで挑戦されたのです。最期

は半年間入院され、気管支切開で、人工呼吸器をつけていたので、まったくコミユニケーションが取れなくなりました。こちらからの声かけ

にも反応できるとは言えず、だんだん意識がなくなっていく状態だったので、身内ではない支援者側がどこまで支援できるかが問われました。この課題は信頼できる医療機関との連携や医療的な介護を含めたヘルパー派遣のシステム作りなど、和久さんが残した課題は改めて大きいものだと思感させられた1年でした。

そして福祉ホーム「あいえる」は設立から3年が経ち、入居者のほぼ全員が地域の1人暮らしやグループホームに移行されました。また、日中活動の場である第2作業所がスタートした年でもありました。

そして障害者自立支援法が本格的に施行され、多くの課題が出てきますし、全国的な反対運動が盛り上がりつつきたにもかかわら

ず、30年にもわたって作り上げてきた重度障害者の地域での自立生活が脅かされています。

「あいえる協会」で支援してきた地域での自立生活を選んだ障害者の仲間が増えてきていますが、その自立生活の本身は、作業所という枠の中でなんとなく過ごして、終わればグループホームや自宅に帰り、ヘルパーを利用した生活があり、1日が終わっていないでしょうか。このような枠組みの中だけの自立生活なら、それは地域の施設化につながっていく恐れがあります。そうではなくもつと外出を増やし、地域とのつながりに目を向け、どんどん新しい人間関係を作っていくって欲しいし、地域のシステムや制度を障害者自身が作り替えていくって欲しいものです。そんな力こそが障害者自立支援法を出直させざるに結びついていくものだと思います。

今年には施設から新しいメンバーを4〜5人迎える予定です。素敵な新しいメンバーとの出会いがどのような広がりを作っていくのか、とても楽しみです。

よい年になりますように・・・



SALOON

隣組ニュース

2月はこのサロンの、どのテーマが
気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン淀川」2月の出会い

日時：2月18日（日）午後1時30分～4時
内容：素晴らしき仲間、介助犬と共に
－介助犬との出会い、そして共に生きる－
ゲスト：北澤 光大(きたざわみつひろ)氏・井土
希(いどのぞみ)氏（兵庫県介助犬協会ト
レーナー）
濱本浩喜(はまもとひろき)氏（介助犬使
用希望者）
会 費：なし
場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
大阪市淀川区三国本町2-14-3
問い合わせ先：淀川区社協（ボランティア・ビュー
ロー） ☎ 06-6394-2900
E-mail：sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にしよど」2月の出会い

日時：2月24日（土）午後1時30分～3時30分
内容：haro haro（ハロハロ）な国、フィリピン
*「ハロハロ」とは「ごちゃませ」という
意味で、フィリピンのデザートの名前。ま
た、その言葉はスペインとアメリカの統治
を経験したフィリピンの文化のこともあ
る。留学した実体験を基にしたいろいろなお
話。
ゲスト：川上恭子氏
場 所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふ
く」
大阪市西淀川区千舟2-7-7
☎ 06-6478-2941
問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
☎ 06-6494-0635
中本 ☎ 090-9864-9678

■「サロン「アイ」」2月の出会い

日時：2月10日（土）午後1時30分～4時
内容：1. 高齢者について
2. 知的障害者について
パネラー：1. 康田貞子氏
（居宅介護支援事業者連絡会委員）
2. 森 統一氏
会 費：なし
場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
大阪市生野区勝山北3-13-20
問い合わせ先：生野区社協（ボランティア・ビュー

ロー） ☎ 06-6712-3101
○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
☎ 06-6757-8574

■「サロン・にし」2月の出会い

日時：2月10日（土）午後2時～4時
内容：トランプ遊びをしよう！
場 所：西区在宅サービスセンター第1会議室
大阪市西区新町4-5-14
☎ 06-6539-8075
会 費：なし
問い合わせ先：関口 ☎ 090-4281-5641

■《てくてく・すみよし》2月の出会い

日時：2月18日（日）11時～15時
集合時間：午前11時（泉北高速線泉ヶ丘駅前）
内容：春まち会食
-19年もいい年になりますよう～に-
場 所：イタリアンバイキング「パバゲーノ」
堺市茶山台1-3-1パンジョ専門店4F
会 費：2000円（交通費別・小人半額）
申し込み締め切り：2月15日（木）
申し込み・問い合わせ先：
山本篤江 ☎ 06-6692-8411
携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」2月の出会い

日時：2月4日（日）午後1時30分～4時
内容：未定
会 費：未定
場 所：鶴見区民センター3階
大阪市鶴見区横堤5-3-15
問い合わせ先：鶴見区社協（ボランティア・ビューロー）
奥井 ☎ 06-6913-7070

■「サロン北」2月の出会い

日時：2月17日（土）午後2時～4時30分
内容：あたり前が、大切。障害のある人と過
ごして…
パネラー：河野靖代氏
NPO法人 office 香音理事長
参加費：無料
場 所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
大阪市北区本庄東2-6-11宝来堂ビ
ル1階
問い合わせ先：障害者福祉作業センター
「たけのこ」内 ☎ 06-6372-8074

■「サロンいたみ」12月の出会い

日時：2月17日（土）午後2時-
内容：神戸カントリー音楽会
場 所：伸幸苑
伊丹市寺本6-150
☎ 0727-78-6765
会 費：なし
問合せ先：安藤れい子 ☎ 072-784-1718

お花ばたけ

お花ばたけの

赤 白 黄色・・・

たくさんの

花が

ぱつとひらいて

ほほえんで

風に呼ばれて

匂いをくれる

.....

「童謡♪絵はがき」

・野菊

・野なかの薔薇

・ひらいたひらいた

・夏の思い出

・酸模(すかんぼ)の咲く頃



え：石田美禰子

童謡♪絵はがき・花Ⅱ

■ 5枚1組 ¥180

寄りみち



2月17(土)に、サロンで観る『ジョゼと虎と魚たち』(田辺聖子・原作)は、2004年に、池脇千鶴が第18回高崎映画祭最優秀主演女優賞を受賞した作品です。映画は、大学生の恒夫がアルバイトをしている麻雀屋で、最近、話題になっているのはいつも乳母車を押して歩いている婆さんの事。恒夫はある日、偶然乳母車に乗っているその少女に遇った。それが、ジョゼ(池脇千鶴)との出逢いだった。ここから物語が始まる……。お後は、観てのお楽しみ。(石)

<サロン・あべの>VOL.247 発行：平成19(2007)年1月20日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>

TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941

印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>